



2015～16 年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラン

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC3月第 4例会 (2016.3.22) No.3127

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」 斉唱

(2) 竹石 松次 会長挨拶

横山 操

大正九年 (1920) ～昭和四十八年

(1973)

燕市 (新潟県西蒲原郡吉田町) に生まれる。生後間もなく、横山修平の養子として育てられた。六歳で吉田町立吉田尋常小学校に入学、絵の上手な少年として注目を集めていた。14歳で高等科を卒業、画家を志して上京、銀座木挽町の洋画家、石川雅山の家で寄宿し、版下やポスターなどを描いていた。

十八歳の時に光風会展に出品した「街裏」が入選、翌年川端学校日本画部に通う。この時に洋画から日本画に転向、新興美術展で入選、また、県展にも出品し「裏町の子供」が入選している。そして、青龍展に「渡船場」が入選し画家としての方向が打ち出された。

しかし、その喜びもつかの間、昭和十五年 (1940) 養父が死亡したほか、十二月には召集令状が来て、新発田歩兵第十六連隊に入隊、やがて中国に派遣され無益な苦しい五年間の戦いに明け暮れた。終戦を迎えたものの今度はソ連の捕虜として抑留され、カザフ共和国の炭鉱に従事させられた。

昭和二十五年 (1950) 二月、三十歳になったばかりの横山は郷里の燕市 (吉田町) に復員はしたものの生活のあてはなく再び上京することとなった。再び石川雅山の家での生活を始めたが、昼間はネオン会社のデザインの仕事、夜は自分の作品という厳しい試練の時を迎えていた。

この時の作品が、「カラガンダの印象」「カザフスタンの女」と抑留時代の思いを作品にした。この時、モデルとなった女性が夫人の基子さんである。創作活動も軌道に乗り、青龍展では、「沼沿ひの町」「白壁の家」「千住風景」等次々と賞を重ねた。その画風は、それまで日本画にはなにくかった身近なテーマがとりあげられ、工場の煙突や鉄骨の燈台など殺風景な対象を敢えて選んでいる。「変電塔」で社友に推挙された。

溶鉱炉「網」「川」など大画面に描いたことから造形性の厳しい追求、そして、黒を基調とした力強い作品はその後の横山の作品の基礎になった記念すべき作品展であった。

同じ年には九州の桜島を写生旅行し、大噴火を起こした桜島に触発され、縦二、五、横四、五の大画面に創作したことで有名となった。友人の加山又造は「一たいにおいて正確な垂直、水平感があり、それを非常に息の長い筆使いで、ぱつぱつと引いて行く。それがいかにも力強い。それを八の字、逆八の字で切っていく構図法が特徴である」と分析している。

日本画の現状に対して闘いを挑む画家としての横山の姿勢が次第に確立して行く。そんな中、昭和三十七年 (1962) の秋、青龍社の出品作「十勝岳」が会場には大きすぎたため入れず拒否されたことを切っ掛けに青龍社を脱会することになった。

そして、水墨画に邁進する様になったが、それまでの水墨画とは違ってアイボリー・ブラック、岩黒、紫黒焼朱等で、甚だしい時には煤を膠 (にかわ) で混ぜた材料で制作、純粋な炭だけの水墨画ではない特徴を持っていた。

1963年東京画廊で「越後風景」「海」「雪原」「茜」等の作品を発表した。展覧会の案内状に、第1回目の個展と敢えてしたのは、ここからまた新たな挑戦が始まるという意味の宣言でもあった。初めて故郷の風景を正面から取り上げ、幼年時代の懐旧の思い出を作品に仕上げたことでも意味のある展覧会であった。この時の作品「茜」は新潟放送が購入、現在は新潟市美術館に寄託されており、館内外の作品展で貸し出されている。越後平野の夕景色に、はさが描かれている大作である。

晩年は多摩美術大学で教壇に立つ一方外国にも度々旅行し作品を描いているが、五十三歳で亡くなっている。

出生の経緯と戦争、抑留という苦難の時代を過ごした横山は、作品にその怒りをぶつける様に日本画に独自の表現方法を編み出した郷土の作家である。

昭和三十一年 (1956)、銀座松坂屋で初の個展を開催「

(3) ゲストの紹介

・ゲストスピーカー

NPO 法人トキどき応援団 理事長 計良 武彦氏

・岡三にいがた証券(株)

理事・経営戦略部長 広川 雅巳 氏

(4) 退会ご挨拶

SMBC日興証券(株)新潟支店長 中山康君

(5) 委員会報告

・本間 疆青少年奉仕担当理事

青少年育成基金贈呈先の募集につきまして、3月10日付のお手紙で推薦をお願いしておりますが、詳細についてご説明させていただきます。1989～90年度に新潟ロータリークラブの創立50周年記念事業として青少年育成基金が設立されました。設立から27年間で約49,660,000円のご寄附があり、ほぼ毎年その利息と当該年度の寄付金で表彰を行っております。当初は基金の利息だけで表彰しておりましたが、発足当時はおよそ7%ほどの利率で、年間100万円ほどの表彰が可能でしたが、因みに昨年の利息金額は9,500円程でした。本年度も当該年度(竹石会長年度)の寄付額を加えて約400,000円の贈呈が可能となっております。設置規則の第5条は下記の通りでございます。ぜひ、5月末までに適当な団体、個人の方の推薦、応募をよろしくお願い致します。なお推薦、応募を受理した後、青少年奉仕委員会で検討し、理事会に諮り決定させていただきます。

「新潟ロータリークラブ青少年育成基金設置規則」第5条

1、学術、文化、スポーツ、の面で優秀な成績をおさめた青少年の表彰

2、学術、文化、スポーツ、における技能向上、または学術研究に成果が期待される青少年の援助

3、青少年育成に努力していると認められる団体及び個人に対する表彰、援助

・吉田次期地区ライラ委員長

次年度ライラ開催の打ち合わせ会が3月30日夜6時、イタリア軒12階にて開催されます。

(6) 各種ご寄付の発表

米山奨学会寄付発表(吉田幹事)

徳永 昭輝君

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

本間 疆君 小林 悟君

(7) ニコニコボックス紹介

・石橋 正利君 東京新潟県人会の異業種交流会で若い人向けに元気が出るお話をさせていただきました。

・岡田 茂久君 昨日(21日)竹石会長のBSN新潟放送にて「しごとを創る 事業創造で地域活性化を～NSGグループの40年～」という番組で当ホテルイタリア軒をとり上げて頂きました。私もちょっとだけ、出演致しましたのでニコニコ致します。

・吉田 和弘君 結婚記念日のお花をありがとうございました。カミさんは「お花もうれいしいけど、ワインのほうがいい」と申しておりました。「絶対、そんなこと発表するのはやめてね！」とクギをさされたことも含めて報告致します。

(8) 卓話

「大空にはばたくトキ～トキを支える人たち」

NPO 法人トキどき応援団 理事長 計良 武彦氏

(9) 3月22日例会の出席率 72.92%

会員数100名(出席免除会員 9名)

出席者 70名(出席免除会員6名を含む)

(2週間前メーク後 87.75%)

4月5日の例会予定

会員スピーチ

「完成間近！これぞ、新潟のビールだ！

一番搾り 新潟づくり」

キリンビールマーケティング(株)

新潟支社長 山本 泰仁 君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>